

2003.3.1

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 29
(NPO法人近畿水の塾ホームページ)

////////////////////////////////////
水ぬるむ春はすぐそこに・・・

////////////////////////////////////

【河川塾NEWS】

先月はNPO法人近畿水の塾設立記念会に多数のご参加をいただきまして、ほんとうにありがとうございました!!!

おかげさまで、映画上映会も交流会も大盛況のうちに会を終えることができました。

「柳川堀割物語」と広松さんをめぐる山道さんのお話もあり、映画の中での懐かしい広松さんのお姿と、映画の語りかける『人と水との長いつきあいを取り戻そう』というメッセージが、改めてと新たな感動を呼んだようです。

詳しい報告はまた、ホームページ上でのリレーエッセイに掲載されますので、そちらに譲らせてもらいますが、これを機会に再び「柳川堀割物語」のミニ上映会が企画されており、柳川（広松）ファンがさらに増える見込み、との噂を耳にしております。

美しい柳川の風景と私たちのお手本となるべき柳川からのメッセージが、より多くの方々に届くことを願って止みません。

近畿水の塾ではこれからも、みなさんと一緒に「水との関わり方を再発見する」、そんなイベントや交流会を企画・実施していきますので、どうぞよろしくお願ひします。

水ぬるむ春・・・

3月16日から開催の「第3回 世界水フォーラム」の関連もあって、そこここに『水』に関するニュースが飛び交うようになってきました。

私たちの足もとから源流を、人から流域を、水から環境を考え、行動する。

足もとの水もぬるんで、自ら行動するに良い季節となるのは、もうすぐですね！

【前回河川塾の内容】

「第26回澤井河川塾」

日時：2月16日(日) 10:00~

場所：近木川・・・案内役：白木ご夫妻(南海「貝塚」駅集合～岸和田市立春木市民センター)

出席：足立、澤井、西河、白木茂、白木江、吉岡、小川、富田、水谷、

佐藤拓&侑(潮騒橋から合流)計12名

内容： シリーズ マイリバー紹介

「泉州 近木川」 - 白木ご夫妻

近木川 ～フィールドワーク～

近木川リバーウォッチング(報告)

平成15年2月16日 日曜日、今回の澤井河川塾は前回の石川に引き続きフィールドワークの日です。対象となる河川は近木川で、12月の河川塾で白木さんより紹介のあった近木川河口改善計画の汽水ワンド建設予定地を中心に、近木川の中流部・上流部の様子を見学しました。あいにく天候は雨で、気温も低め。一日中傘をさしながらの見学会となりましたが、自然の森に囲まれた上流部では、かえって風情があったようにも思えました。

午前10時、参加者一同は南海貝塚駅に集合しました。当日は泉州国際マラソンの開催日で交通規制があり、車での移動は困難なため徒歩をまじえて移動することとなりました。移動用の車は3台用意されていましたが、現地の駐車スペースが少ないことから2台に減らすこととなり、1台を貝塚市役所に駐車することとなりました。その出発のとき、ちょっとしたトラブルが。グループの車の一台が他人の車に接触したのです。車の傷はたいしたことはなく、もちろんけが人もありません。しかし、このようなトラブルは今後のフィールドワークでも起こり得ることで、何か保険的な対応策があったほうがよいのではと感じました。



近木川永久橋付近

貝塚市役所を出発した一同は、永久橋に到着。このあたりでは、子供たちによるかにつり大会などが行われます。えさにはたくわんが使われるそうで、理由はイカやスルメよりも安いからだとか。子供たちが川に下りるときには、護岸に取り付けられている金属製ステップ(護岸を降りるためのはしご)に板を取り付けることで降りやすくする工夫がなされているということです。



近木川河口付近

上の写真は近木川河口付近の様子です。右側に見える小高い丘のふもとが汽水ワンド建設予定地です。ワンドには川の流れや潮汐により土砂が堆積して、自然の干潟が形成されることが期待されています。一方、自然に土砂が堆積するには長い年月を要することから、澤井先生のゼミでは現地の模型を作成し、河床変動について解析するための実験研究が行われる予定です。

現在、河口付近の干潟には 60 種類以上もの甲殻類が確認されていて、専門家が調査を行うと次々に新種が発見されるということです。



近木川福永橋付近



安楽寺への参道

近木川中流部として見学したところは福永橋です。河口から 3 キロほどのところにこのような風景があるのは近木川の魅力だと感じました。福永橋のすぐ横には、川に沿って安楽寺への参道があります。天候が悪く、時間も押し迫っていたことから今回は奥へは進みませんでした。



近木川上流部（松葉荘付近）

近木川上流部としては、松葉荘付近を見学しました。この日は雨のため水量が多かったのですが、夏の晴天時には子供たちが急流すべりで遊んだり、滝つぼに飛び込んだりして遊ぶことができるそうです。



途中で予定していた昼食もとらずにここまで来たのですが、上流部を見学し終えた時点で時刻は1時頃になっていました。白木江都子さんは、この後ラブ・リバー・テンドー会議のコーディネーターを務められることになっていたため、一足先に春木市民センターへ向かわれました。残りの参

加者は昼食をとりながら意見交換をしようと近くのつぼ八へ向かったのですが、ここが閉まっていたため、春木市民センターと隣接する長崎屋へ向かうこととなりました。昼食を終えて、2時30分、近木川見学会は解散となりました。このあと、9名の人がラブ・リバー・テンドー会議に合流しました。

[水谷]

【次回の予告】

次回、「澤井河川塾」のご案内です。

第27回「澤井河川塾」

日時：3月12日(水) 19:00～21:00
・・・今月は第2水曜日の開催です！！

集合：センター（いつもの6F会議室）

内容：マイリバー紹介 ふりかえり
「土居川から近木川まで」
話題提供
「九州 松浦川ワークショップ」 - 福廣さん

参加申込：近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail: mizunojuku@yahoo.co.jp）まで 3/11(火)締切

「澤井河川塾」番外編を3本続けてご案内します。

「澤井河川塾」番外編 「映画『柳川掘割物語』再上映会

日時：3月10日(月) 19:00～

集合：センター

内容：「柳川掘割物語」上映会

参加申込：近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail: mizunojuku@yahoo.co.jp）まで 3/9(日)締切

「澤井河川塾」番外編 「水に関するワークショップin大阪」見学会

日時：3月20日(木) 15:00～

・・・水フォーラム無料デーの初日です！！

集 合 : 地下鉄「阿波座駅」(中央線1号出口 地上)に15:00

内 容 : ブース・パネル展示に寝屋川再生ワークショップ、淀川愛好会、
石川河川公園自然ゾーンワークショップ、近畿水の塾 など
河川塾おなじみの団体が出展

17:00~18:00 高野弘「水コンサート」

【オプションツアー】

見学会の後、「酒フォーラム」を予定！！

参加申込：近畿水の塾 事務局 (FAX:0725-53-5325

E-mail: mizunojuku@yahoo.co.jp)まで 3/19(水)締切

「瀬井河川塾」番外編 「淀川 平成ワンドと木工沈床」見学会

日 時 : 4月3日(木) 13:00~17:00

集 合 : 京阪「樟葉駅」改札に13:00

内 容 : 淀川 樟葉の平成ワンドを見学した後、
電車とバスを乗り継いで長柄橋へ
長柄橋にて木工沈床工事の見学

参加申込：近畿水の塾 事務局 (FAX:0725-53-5325

E-mail: mizunojuku@yahoo.co.jp)まで 3/19(水)締切

詳細は河川塾通信 号外にてお知らせいたします。

【川の情報ボックス】

イベント報告

子どもと海・なぎさ海道フォーラム in 貝塚 (近木川河口フォーラム)

テーマ 「21世紀の川と海そして自然との豊かな係わりを求めて」
次世代を担う子どもの視点から考える

目的 近木川河口の祖全盛体系の復元をめざす取り組みと関係主体の協働の
場づくりを進める

海辺で子どもや自然観察などをテーマに取り組みを進めている市民団体の
交流と連携を進める契機とする

日時：平成15年2月22日(土)10:00~17:00

場所：近木川河口と関空交流館

主催：貝塚市立自然遊学館、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構

後援：国土交通省近畿地方整備局、大阪府

内容

10:00~12:00 **第1部 自然観察会(近木川河口にて)**

バードウォッチングと打ち上げられた貝がら拾い

二色浜公園の潮騒橋集合で、さっそく白木江都子さんの案内でバードウォッチング。
参加者のみなさんの中には親子連れの方々も多く、子どもたちの歓声も聞こえてくる賑やかな雰囲気での観察会が始まりました。



潮の加減もあり、この時間帯ではまだ近木川河口の前浜干潟は出現していませんでしたが、周辺の渚や海上にいる野鳥を橋の上から観察しました。カモ類を中心として、ダイゼンなどのシギ・チドリ類やカンムリカイツブリなども見ることができました。

大阪市自然史博物館学芸員の和田先生からの詳しい解説もあり、参加者は実際の鳥と先生のお話の両方に目と耳を傾けて、忙しいながらも大満足の観察会となりました。

自然を体感するには、ただ漫然と見るだけでなく、専門家の分かりやすい解説やちょっとしたエピソードを聞かせてもらうだけで、ずいぶん身近なものに感じられるものです。



海側の観察のあとは双眼鏡を山側に転じて、今度は「汽水ワンド」予定地である近木川下流部に集まる鳥たちを探しました。

コガモ、アオサギ、コサギ、カワウなどが見られましたが、特にカワウはシンクロナイズドスイミングよろしく、2羽が連れだって潜っては浮かび、また潜る繰り返して盛んに魚を追っているのが分かりました。このことから、こ

の下流部にウヤサギの餌となる小魚や小動物が豊富であろうことが見てとれました。



次に、ちょっと鳥を驚かすことになってしまいますが、近木川河口の浜に降りて貝拾い。

貝拾いといっても潮干狩りをするのではなく、風や波によって打ち上げられた貝殻や生きた貝を拾って、観察・同定をするというもの。

ここでも貝の専門家である児嶋先生のお話があり、今年は1月の初めと終わりに強い風が吹き、普段は海の深いところに棲む貝や生きた貝が32種類も見つかったそうです。

今年の観察会では珍しい貝が見つかるかも、と参加者のみなさんは勇んで浜に繰り出しました。

ふだんは何気なく浜を歩いていてもよく見ると、あるわあるわ、渚に打ち上げられたゴミと思っていた堆積物の中に貝殻や海草やカニの脱皮殻がいっぱい見つかりました。生きもの棲息の痕跡って、こんな身近なところにもたくさんあるのですね。

子どもたちは、それらのひとつひとつを宝物のように拾い上げ、小さなビニールの袋いっぱいになるまで集めてまわっていました。

さあ、たくさんの打上げ貝の収穫のあとは、収穫物の品評会です。きれいな桜貝から誰かが食べたホタテの貝殻(?)まで、ほんとうにいろんな貝が見つかりました。

児嶋先生に一点一点同定してもらいながら、この貝がどんなところに住んでいて、どんな生活をしているのか教えてもらうことで、この近木川河口の自然環境の多様さと豊かさを実感できました。

13:30~15:20 第2部 近木川河口の自然再生をめざす地域交流(関空交流館にて)

午前中は何かもっていた空模様も、お昼からの室内フォーラムの開始を待っていたのかのように、いよいよ本降りとなりはじめました。

第2部は「近木っ子探検隊」を始めとする活動報告と意見交換です。



トップバッターはこの日のために東京から駆けつけてくださいました君塚先生。

全国各地のワンド再生の取組み事例とワンドの種類から計画論まで、「近木川河口に汽水ワンドをつくる」ことの意義を“魚”という視点から熱く語ってくださいました。

実は「近木川汽水ワンド」提唱の張本人は君塚

先生だったとか。

「ここには、公園と遊学館、そして何よりそれらを囲む優秀な人材がある。汽水ワンドにより近木川の自然の多様性がさらに増し、これらを活かすソフトを動かせば素晴らしい。全国にも稀なワンド再生の取組みとなるだろう」

次は貝塚市立西小学校の先生の発表。

最初は子どもたちを川に降ろすだけで苦労したとか。川の中でいろんな生きものたちと出会う内に子どもたちの目つきが変わってきたとのこと。

そして、その子どもたち。

近木っ子探検隊の子どもたちが、ちょっぴり緊張しながらも、「夜の海で夜光虫を見た」

感動を語る姿に、会場も感動していました。

子どもたちに『この感動』を残しておきたい、と思ったのは私だけではないでしょう。これからは「汽水ワンド」が新たな『感動』を生みだすはずだ、と確信しました。



発表は続き、貝の児嶋先生、カニの山田先生もわくわくクラブの西河さんも白木さんも、鳥の和田先生も「汚いけども、生きものがいっぱい魅力的な川-近木川」をもっと良くしようと、それぞれの思いを述べられました。

中でも和田先生の「生きもののスケールにあったスペックが生息環境には必要だ」というお話が印象的でした。ハクセンシオマネキ一つをとってみても、「汽水ワンド」は海と川でつながっているからこそ、単なる箱庭にならずに生きものにあふれた場所となるのでしょうか。

15:20～17:00 第3部 子どもと海の豊かな係わりをめざす広域交流（関空交流館にて）

第3部は“ベイエリア”で市民活動をされている団体の事例発表です。



兵庫 江井ヶ島の「海の子」でなくなった子どもたちを海へといざなうお話、近木川の2つ南の男里川の干潟守る活動、泉南箱作での海岸林を育てる活動等の報告と意見交換がなされ、主催者からは「なぎさ海道市民ネットワーク」の紹介がありました。

若干、1部・2部とは主題がずれてきてしまっている感は否めませんでした。これらの事例で大切なのは、そのほとんどが地域や市民から

提案が持ち上がって、地域や市民がそれらの実現のために主体的に活動していることでしょう。これを捻じ曲げることなく、長く続けられる“かたち”にしていくことが、我々市民活動団体のこれからの課題であると感じました。

[拓]

イベント情報

第3回世界水フォーラム関連イベント

「大阪水プラザ」&「水に関するワークショップ in 大阪」

近畿水の塾もパネル展示部門で参加します！

主旨 「第3回世界水フォーラム」を契機に、水問題に関心を持ち、活動されている住民やボランティア団体、NPO・NGOの皆さんに集まっていただき、日ごろの活動成果の発表や意見交換を通じて、今後の水問題の解決に役立てるために開催します。

会期 「大阪水プラザ」平成15年3月18日(火)・19日(水)

「水に関するワークショップ in 大阪」 3月20日(木)~22日(土)

「大阪水プラザ」の公開対象はフォーラム分科会参加者のみ(有料)

場所 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)3F イベントホール、他 10F 会議室

主催 第3回世界水フォーラム大阪委員会事務局

お問合せ先 第3回世界水フォーラム大阪委員会事務局

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51 大阪国際会議場 11階

T E L : 06-4803-8024,8025 F A X : 06-4803-8026

E - m a i l : worldwaterforumosaka@blue.ocn.ne.jp

URL:<http://www.worldwaterforumosaka.org>

ロゴマーク募集

先の設立記念員にてお知らせいたしましたとおり、NPO法人近畿水の塾のロゴマークを以下のとおり募集しています！！

水と水辺を愛する人のためのNPO「近畿水の塾」が生まれました。

親しみやすく、一目で「近畿水の塾」とわかるロゴマークをデザインしてみてください。

採用された場合は、未入会の方には入会金と初年度会費がタダ(!)に、既に入会され会費等の支払いをされている方の場合は2003年度の会費5,000円をキャッシュバックします。

奮ってご応募下さい！！

募集要項

応募資格 どなたでもご参加できます

ロゴマークの様式

- ・5cm×5cmの正方形に収めてください
- ・単色刷りを前提としますので黒一色をお願いします
- ・応募作品は手書き原稿、プリンタ等の出力原稿、デジタルデータ、いずれの形で結構です。但しデータで応募される場合は、AdobeIllustrator(ver9.0.2以下)のファイルに限らせていただきます。また、電子メールでのご応募は受け付けかねます。出力イメージを添えて、フロッピーディスクまたはCD-Rを郵送してください。

締切 2003年3月末日

問い合わせ・作品送付先 〒594-1151 大阪府和泉市唐国町 1-19-95-201 佐藤方

E-mail : mizunojuku@yahoo.co.jp HP : <http://www.geocities.jp/mizunojuku/>

発表 2003年度総会(4~5月を予定)にて発表、ホームページ上で公開します)

【事務局より】

河川塾世話人紹介の第5回は、事務局の自己紹介をさせていただきます。

こんにちは 近畿水の塾 事務局員の佐藤 侑美と申します。

今まで「自然」とか「川」を遠目に見ているだけの私でしたが、ひょんな事からこちらの事務局のお手伝いをさせて頂く事になりました。元々、事務のお手伝い(だけ?)のつもりでしたが、しかしフィールドワークに参加してみると、これが「楽しい!」ということに気づき始めました。思い返すと、最初は澤井先生の「ビオトープを作ってみよう」行事でした。でもミミズが大の苦手な私は、どう考えても土を掘り返す作業が出来ない状態で、結局は、楽しいおやつのでんざい作りをお手伝いするだけのゴマメ参加でした。でも、ゴマメ参加なのに、何故かでんざいは人の3倍も頂いてしまいました。未だに専門用語や難しい理論はさっぱりわかりません(きっぱり!)。ただ現地に出かけた時に「ああこの風景良いよねー」と感じる事で、自分の子ども達にも絶対に大事に渡してあげたいと、参加する度にその思いは積み重なってきています。先月の設立記念会にて上映された「柳川堀割物語」を初めて観た時も、ゾワッと鳥肌が立ちました。こんなに一生懸命に「川」「自然」「水」に尽くす事が出来る、決して私利の為ではなく取り組めるとはと、何とも心に響くものがありました。

たまたま、事務方をする事になりましたが、私の生活の中で色々体験させてもらえるいい機会を作ってもらえたと感謝しています。何かある度に手探り状態で進みつつありますが、「楽しく」をモットーにやっています。これからもどうぞよろしくお願いします。